

交通事業

▶平成19年度下半期の事業概要

① 事業の概要

今期の交通事業の運営は、引き続き乗客の減少傾向に加え、原油価格高騰による燃油費の増嵩など、厳しい状況が続きました。このため、お客様の利便性・サービスの向上を図るため、聞き取りやすい行先案内の提供を行う音声合成装置の導入に取り組み、また、シーズンオフにおける貸切バス企画ツアーの催行など増収対策に努めました。一方で、平成15年度から平成19年度を期間とする中期経営計画に基づき、少客ダイヤの見直しなどによる適切なコスト水準の達成に向けた経営の効率化に努めました。

今期の事業実績は前年同期と比較して走行キロにおいて7.2%の減、輸送人員においては2.7%の減となりました。

その結果、19年度においては、総収入・総費用とも消費税及び地方消費税抜きで、総収入55億3,189万円に対し、総費用55億4,548万円となり、1,359万円の純損失を生じる見込みです。

② 業務状況

(ア) 車両

今期末の在籍車両は、411両です。

(イ) 輸送

a 免許キロ

今期末の総免許キロは1,838.94kmで、今期新たに免許を受けた主な路線は、次のとおりです。

免許を受けた路線

坂口～黒木線	11.2km
--------	--------

b 走行キロ

今期の総走行キロは970万9,349km（乗合807万606km、貸切163万8,743km）で、前年度同期と比較して7.2%の減となり実働1日1車当たり総走行キロは165kmとなります。

c 輸送人員

今期の輸送人員は813万5,247人（乗合783万5,061人、貸切30万186人）で、前年度同期と比較して2.7%の減で実働1日1車当たりの人員は138人となります。

③ 経理の状況

経理の状況は、およそ次の表のとおりになる見込みです。なお、予算と対比して、その執行状況を明らかにするため、本表の金額は消費税及び地方消費税込みとなっています。また、本表における収益的収入から支出を差し引いた収支見込額と純利益見込額との差については、資本的収支における消費税及び地方消費税の精算分が収益的収支に含まれることなどによるものです。

平成19年度予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出

(収入)

(単位：千円)

区 分	予 算 額	執 行 見 込 額
事業収益	5,760,787	5,760,792
営業収益	4,831,168	4,831,171
営業外収益	897,440	897,442
特別利益	32,179	32,179

※本表の金額は消費税及び地方消費税込みとなっています。

(支出)

(単位：千円)

区 分	予 算 額	執 行 見 込 額
事業費用	5,745,602	5,745,535
営業費用	5,229,097	5,229,033
営業外費用	465,404	465,401
特別損失	51,101	51,101

※本表の金額は消費税及び地方消費税込みとなっています。

(2) 資本的収入及び支出

(収入)

(単位：千円)

区 分	予 算 額	執 行 見 込 額
資本的収入	641,463	641,466
企業債	539,000	539,000
他会計借入金	66,000	66,000
建設補助金	18,042	18,043
固定資産売却代金	13,020	13,021
投資返還金	5,401	5,402

※本表の金額は消費税及び地方消費税込みとなっています。

(支出)

(単位：千円)

区 分	予 算 額	執 行 見 込 額
資本的支出	1,466,707	1,466,704
建設改良費	567,574	567,573
企業債償還金	650,263	650,262
他会計借入金償還金	144,400	144,400
退職給与金	103,762	103,762
投資	708	707

※本表の金額は消費税及び地方消費税込みとなっています。なお、退職給与金については、毎年度の収益的収支への影響の平準化等を図るため、各年度において見込まれる平均的な退職者数については収益的支出で支出し、これを超える退職者がある場合は資本的支出で支出し繰延処理を行うこととしています。